

| | |
|----------------------|---|
| 重点取組名 | 直売所支援を通じた地域農業の振興と地域活性化 1 地域資源を活用した起業活動の推進 |
| 普及活動担当 | 1 大城清美 沖縄県農林水産部北部農業改良普及センター農産物活用担当 |
| 主要な活動地域・対象農業者 | 1 今帰仁村農山漁村生活研究会「そーれの会」13人 |
| 取組結果・成果 〈取組みのねらい〉 | <p>① 起業経営管理能力の向上 法人化への取り組み体制として役場との連携により、法人化への取り組みの整理が出来、運営協議会の開催にいたる。(税理士、弁理士の統一) 経営費記帳(会計ソフト入力支援)は部門別に整理されたため来年度からは部門別に把握することが出来る。 経営費把握のためのコンサルでは、税金関係を含め、法人化へのノウハウを学ぶことが出来た。 今年度は、みなし法人として法人税を納めた。 法人形態の選択では、5月から新施行される法人形態の合同会社よりも旧形態での有限会社の方がメリットも高いことから、4月いっぱいでの登記を目標にしている。 しかし、今帰仁村の条例で問題が生じることから、早急の運営協議会での検討が行われた。 その結果4月24日(月)大安吉日の日に登記し法人となる。</p> <p>② 販売促進の支援 販売管理記帳(販売管理ソフト入力支援)の初期設定を終了した。次年度からは、数値的に把握することが出来る。各種イベントにて地域の特産品のPRを行っており、知名度も上がってきている。</p> <p>③ 起業組織の育成 接客マナー評価検討会では、接遇のあり方や今後の対策方法についての話し合いがなされ、今帰仁村農村女性起業活動の接遇マナーが、どのように行われているのか、講師の先生による電話対応マナーチェックと実際の現場でのマナーチェックが行われた。その結果から、対象にあったメニューでの講習会の開催となり今後にかせるものとする。</p> <p>④ 加工技術の習得 各種学習会への参加や技術支援では、農産物の活用方法を学ぶことが出来たことで、地産地消のメニューが増えたことや、加工技術のレベルアップに繋がっている。(天然ペクチンを使用したジャム加工検討)</p> |
| 連携機関、協議会等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今帰仁村中山間地域利活用施設(そ〜れ)運営協議会 ・ やんばる起業グループ連絡研究会 ・ 元気農業法人やんばるネットワークの会 |
| 取組の特徴や取組に際しての工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を解決するにあたり、事業導入のため、クリアしなくてはならない点等があり村役場との調整や検討会、運営協議会の開催までにかかなりの労力を費やした。 ・ 法人化への意識を高めるために元気農業法人やんばるネットワークの会の賛助会員としての入会を促す。 ・ 接客マナーについては、頭ではわかっているが実際に行動に移せないなどの声があり、また、消費者からの問題点も上げられていたことから、講師によるマナーチェックを行うことで対象者にあったメニューにするための調整に力をいれた。 ・ 果樹の豊富な地域だけに天然ペクチンを使用したジャム作りの取り組みが出来ないか?との投げかけには、材料の調達から全て対象者に行うように促した。また、技術については自己研修や研修課題にあげてもらい技術の習得を図った。 |
| 【参考】 | |